

2026

7.29 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

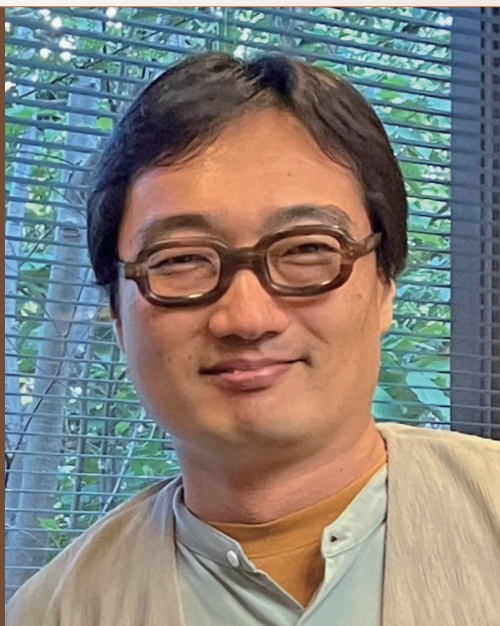
オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_aihkPZqpQM-3KSeeQiq09A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

「みんなのため」を問い直す、 マイノリティ基点のインフラデザイン



Key Words

社会包摂

インフラデザイン

当事者共創

総合知

実装

羽野 暁 准教授

九州大学 芸術工学研究院 未来共生デザイン部門

九州大学芸術工学研究院准教授。博士（工学）。2002年、九州大学大学院工学府修了。建設コンサルタントとして、行政機関の設計コンサルティングに従事。その後、九州大学大学院博士課程を経て、2012年より第一工業大学助教、講師、2018年より九州大学キャンパスライフ・健康支援センター特任助教、特任准教授、2025年より現職。現在の専門は、公共インフラのインクルーシブデザイン。大学院卒業後、20代は橋梁を中心とした公共空間のコンサルティング業務に携わり、インフラの物理的側面の充実に邁進。徐々にひとへの関心が強まり、博士課程以降、まちづくりや景観デザインの実践で市民共創に傾倒。その後、九大でインクルーシブキャンパスの実装を進める「らくちんラボ」を開始し、より多様なエンドユーザーを包摂するインフラのあり方を模索しています。越境と共創が大好きです。土木学会デザイン賞、キッズデザイン賞、日本サインデザイン賞等受賞。編著にインフラ再考（土木学会）。

本セミナーでは、インフラの捉え方をあらためて問い直します。インフラを従来のような物理的基盤に限定せず、共生社会を支える公共的な基盤として捉え、これからの公共インフラのあり方を探ります。特に、マイノリティを「追加的に配慮すべき対象」としてではなく、社会や空間を捉え直すための基点として位置づけ、異なる特性が共存できるインフラのデザインについて考えます。講師は、文理を横断する多領域の専門家によって構成される「九州大学らくちんラボ」を組織し、総合知を活用した新しい公共空間の実装を進めてきました。その過程では、議論を専門家だけに閉じるのではなく、アイデアの創出から実装に至るまで、当事者ユーザー、実務者、研究者など、多様なステークホルダーとの共創を重視しています。こうした実践を通して、マイノリティを基点に当事者と共創される公共空間を「インクルーシブインフラ」と捉え、土木学会をはじめとするインフラ整備の領域において、新たな視点と考え方を提案しています。